

2021年3月期 決算説明

2021年5月14日 クボテック株式会社

目次

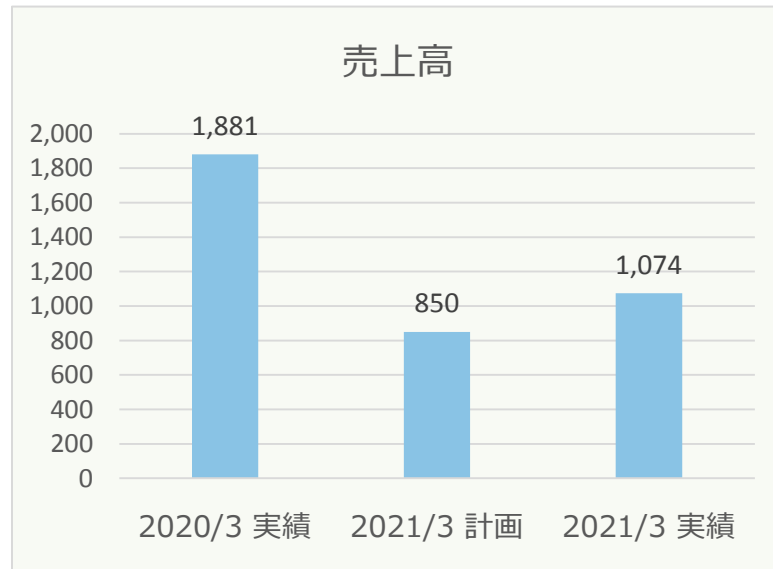
1. 2021年3月期 連結業績概況
2. 2022年3月期 計画

1. 2021年3月期 連結業績概況

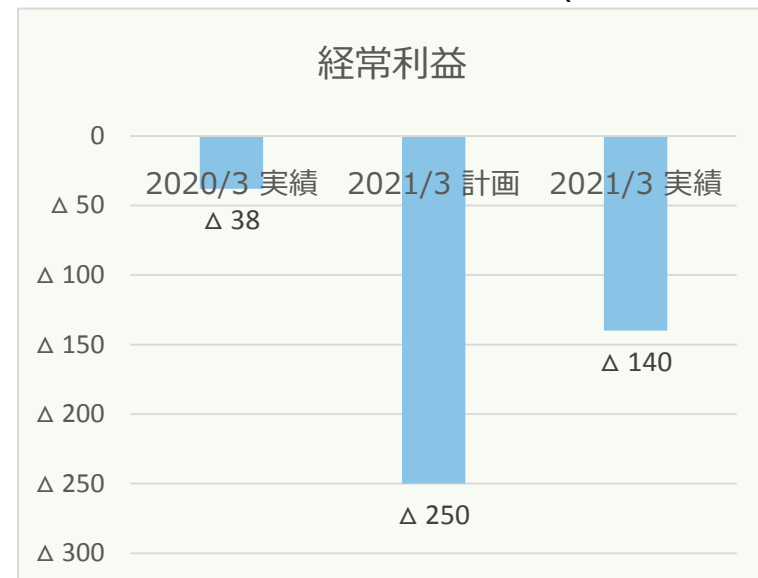
2021年3月期 連結業績概況

- 当期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などを受け、前期に比べ大幅な減収、経常損益は赤字
- 採算を重視した製品戦略、固定費削減など事業構造改革の効果が発現計画比では増収、損益面では赤字幅が減少

(単位：百万円)



(単位：百万円)



経営成績

- 新型コロナウイルス感染症拡大による客先設備投資への影響、営業活動の制限から、前年比で40%超の大幅な減収
- 損益は、大幅な減収に伴い赤字
採算を重視した製品戦略、製品構成の変化に伴う内製割合の上昇、固定費削減効果を反映し、損益分岐点は低下、収益性改善

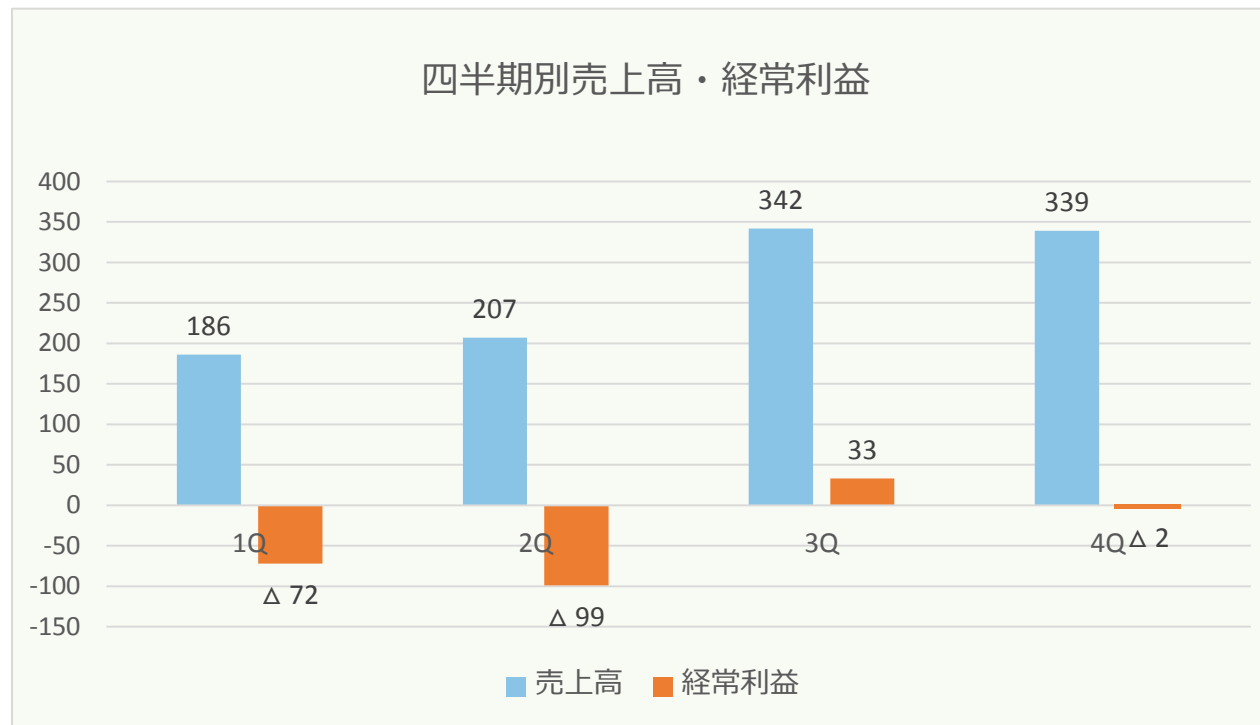
(単位：百万円)

	2020/3 実績 (A)	2021/3 10/30公表修正計画 (B)	2021/3 実績 (C)	前期実績比 増減額 (C-A)	計画比 増減額 (C-B)
売上高	1,881	850	1,074	△ 807	224
営業利益(△損失)	△ 28 (△1.5%)	△ 240 (△28.2%)	△ 131 (△12.2%)	△ 103	109
経常利益(△損失)	△ 38 (△2.1%)	△ 250 (△29.4%)	△ 140 (△13.0%)	△ 102	110
当期利益(△損失)	△ 101 (△5.4%)	△ 230 (△27.1%)	△ 116 (△10.8%)	△ 15	114

四半期別売上高、利益推移

- 1Q、2Qは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で低調に推移
- 年度後半は回復、コロナの影響で回復への道筋は不透明

(単位：百万円)

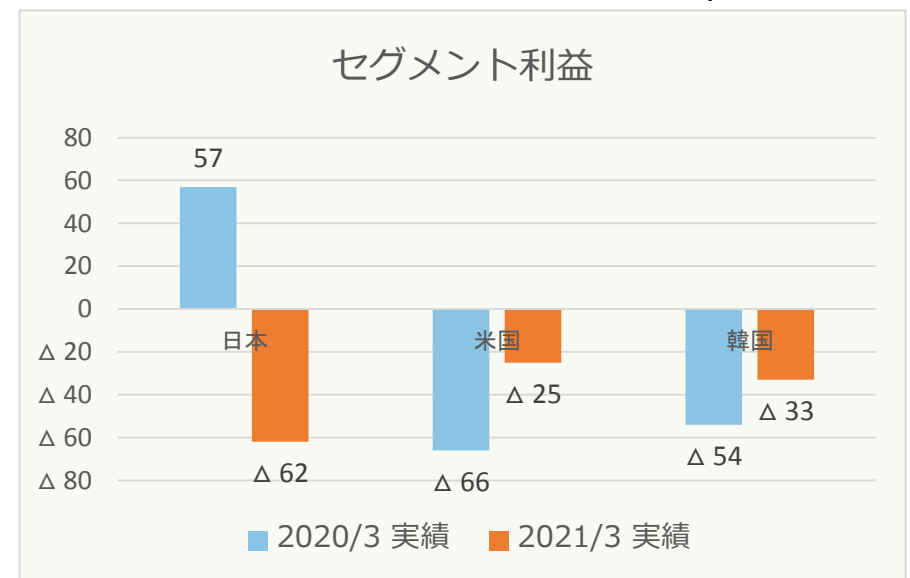
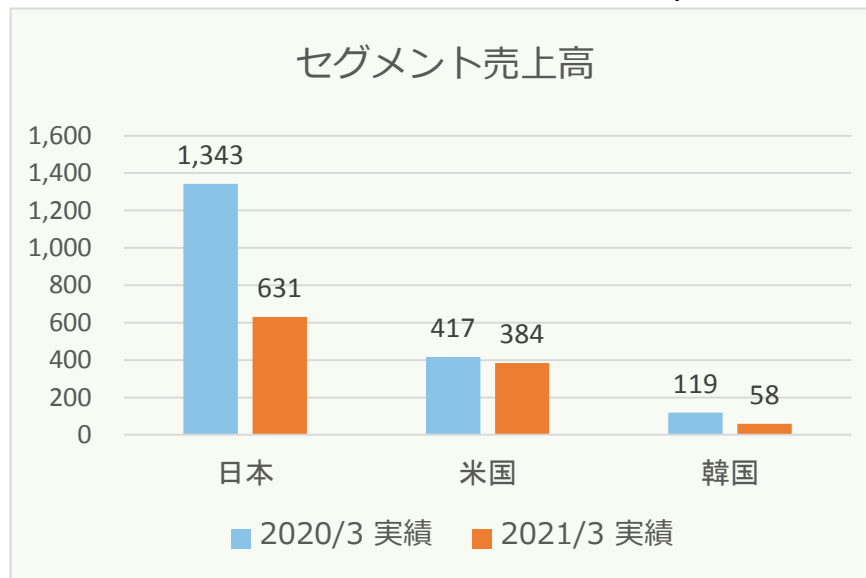


セグメント別売上高、利益

- 日本では、設備投資抑制の影響で受注低調、特に画像処理外観検査装置は約7割の減収
- 米国では、3次元比較検証ソフトウェアなど新製品が伸び悩み既存製品の保守による収益計上で、一定の売上は確保
- 韓国では、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連が納期延期などで減収

(単位：百万円)

(単位：百万円)



貸借対照表

(単位：百万円)

	2020/3 期末 2020年3月31日	2021/3 期末 2021年3月31日	前期実績比 増減額
流動資産			
現預金	1,875	1,777	△ 98
売上債権	559	436	△ 123
棚卸資産	158	121	△ 36
その他	△ 6	△ 5	2
固定資産	213	201	△ 12
資産計	2,799	2,531	△ 268
流動負債	1,001	998	△ 3
固定負債	576	415	△ 161
負債計	1,578	1,413	△ 164
資本金	1,951	1,951	-
利益剰余金	△ 677	△ 794	△ 116
その他	△ 52	△ 40	12
純資産計	1,221	1,117	△ 103
負債及び純資産合計	2,799	2,531	△ 268

- 総資産は、
現預金、売上債権などで
2.7億円減少
- 負債は、
借入金の返済などで
1.6億円減少
- 純資産は、
純損失の計上などで
1億円減少

キャッシュ・フロー計算書

- 営業キャッシュは、売上債権の回収、減価償却費の計上で、2億3千万円の収入
- 投資キャッシュは、ソフトウェアの取得で1億6千万円の支出
- 財務キャッシュは、借入金返済の結果、1億6千万円の支出

(単位：百万円)

	2020/3 実績	2021/3 実績
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	240	232
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 171	△ 166
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 445	△ 164
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 8	0
V.現金及び現金同等物の増加額	△ 384	△ 98
VI.現金及び現金同等物の期首残高	2,228	1,843
VII.現金及び現金同等物の期末残高	1,843	1,745

2. 2022年3月期 計画

2022年3月期 連結業績計画

- 新型コロナウイルス感染症拡大、長期化による不透明な事業環境が継続
- 低調な受注状況を考慮し、売上は伸び悩み、損益は赤字を予想
- 事業構造改革で損益分岐点は低下、一定の売上を確保し黒字化を目指す

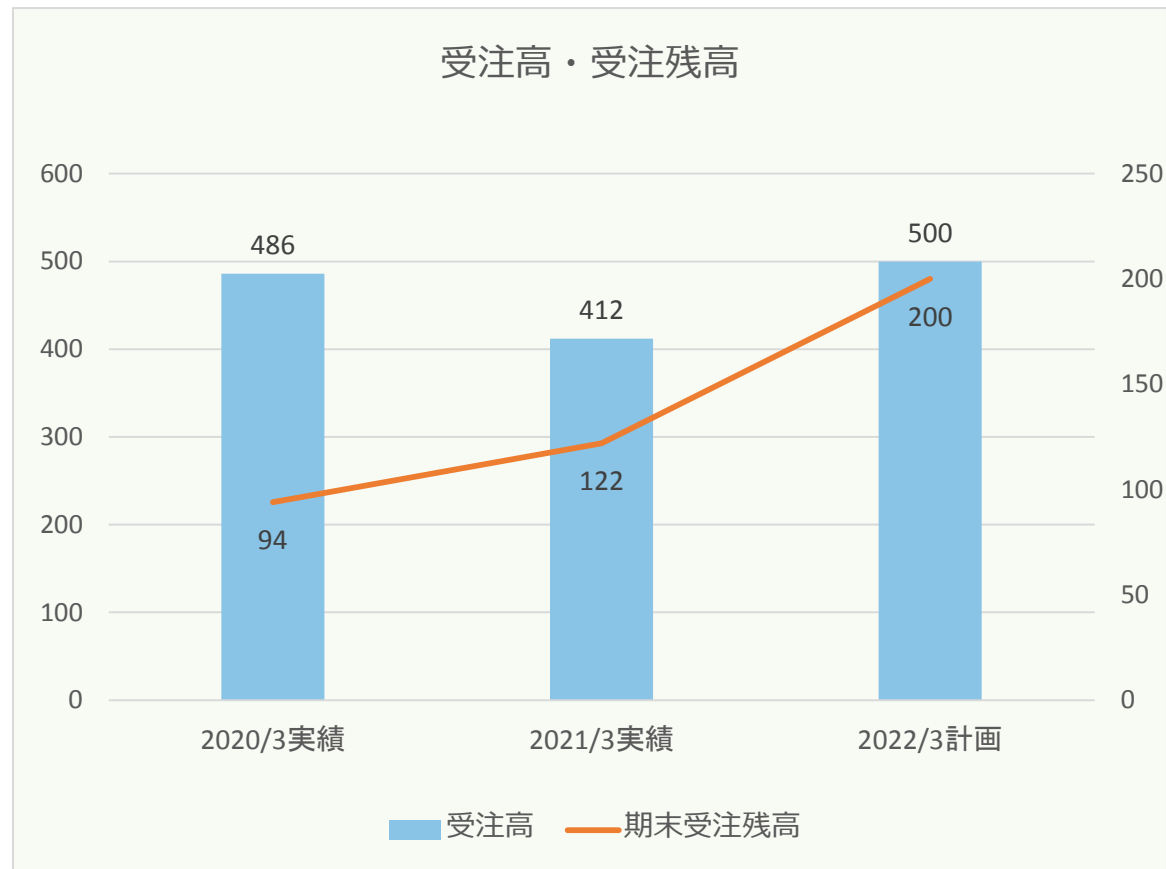
(単位：百万円)

	2021/3通期 実績	2022/3通期 計画	前期実績比 増減額
売上高	1,074	1,200	126
営業利益(△損失)	△ 131 (△12.2%)	△ 55 (△4.6%)	76
経常利益(△損失)	△ 140 (△13.0%)	△ 65 (△5.4%)	75
当期利益(△損失)	△ 116 (△10.8%)	△ 20 (△1.7%)	96

受注高・受注残高の推移

- 受注、受注残高は、依然低水準で推移
- 機能性フィルム、次世代パネル向け検査装置の拡販に注力

(単位：百万円)

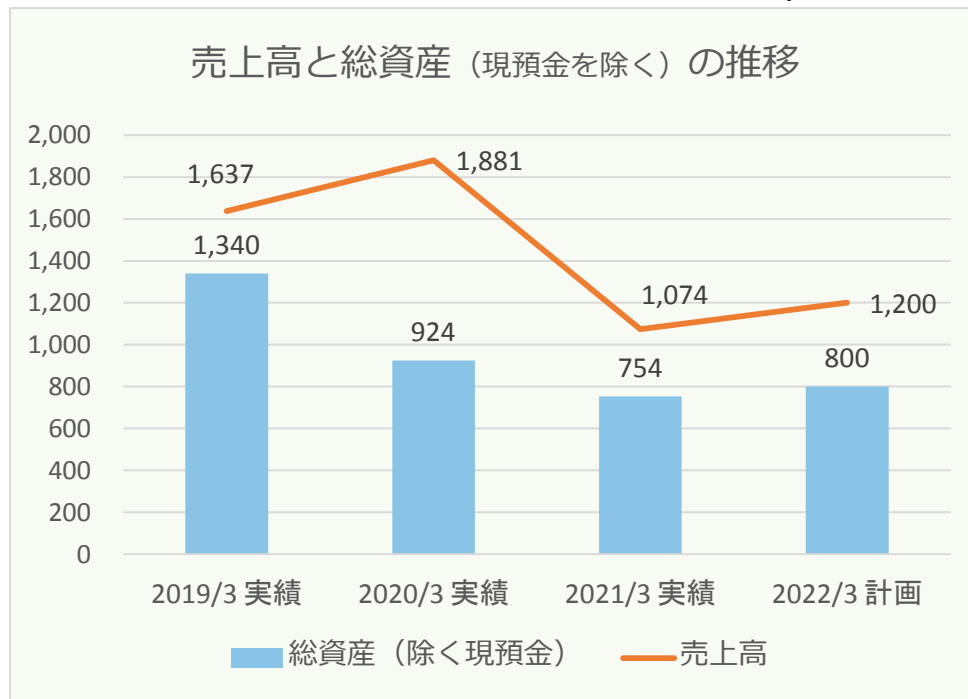


総資産、固定費等の推移 (1)

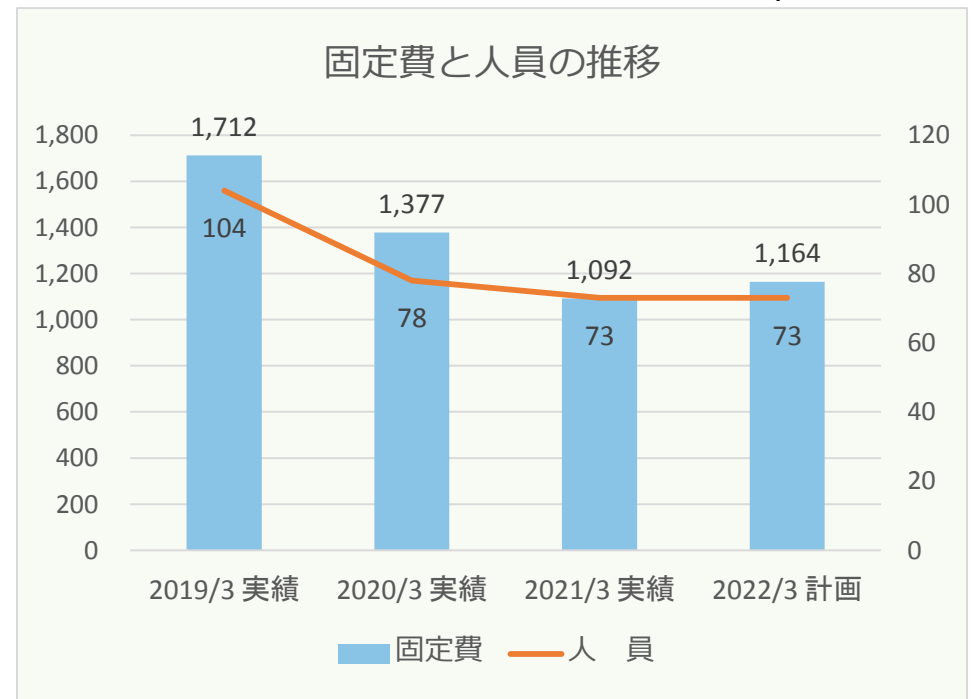
■ 2019年3月期から事業構造改革を実施

- ①新規事業・新製品の開発と販売、②資産圧縮、③固定費削減

(単位：百万円)



(単位：百万円)



新規事業・新製品の 開発と販売

次世代パネル、機能性フィルム
向け検査装置の開発・販売

Kosmos Products の
開発・販売

HEVC 採用モデル、
4K対応製品の開発・販売

Haniwa の開発・販売

フライホイール
大出力発電装置の開発

資産の圧縮

工場土地・建物の売却

長期滞留債権の回収

在庫の廃棄、評価減の実施

投資有価証券の売却

海外子会社の清算

固定費の削減

工場の閉鎖、統合

人員配置の適正化

経 費 削 減

役員・管理職の
報酬給与カット

全従業員の賞与削減

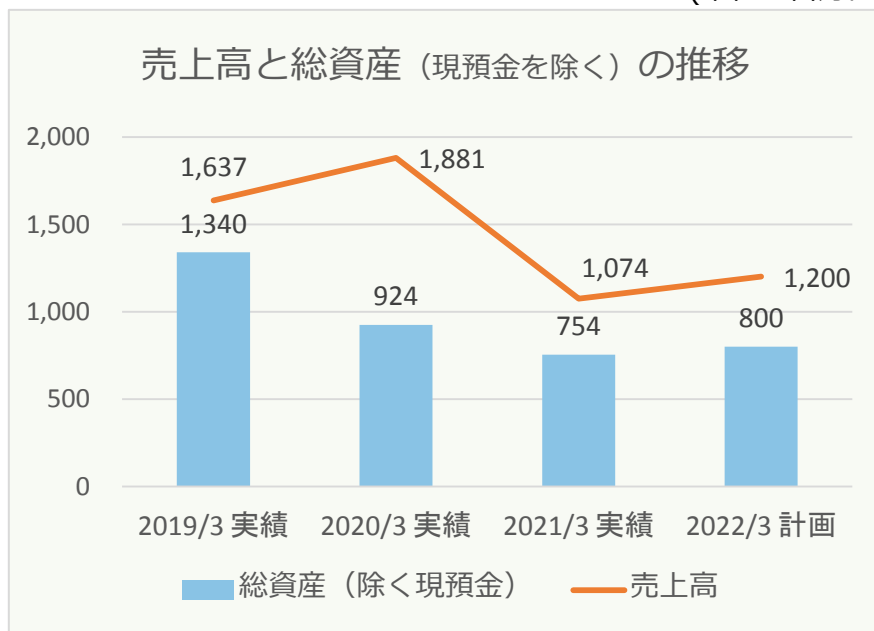
自然減、退職者不補充

希望退職の実施

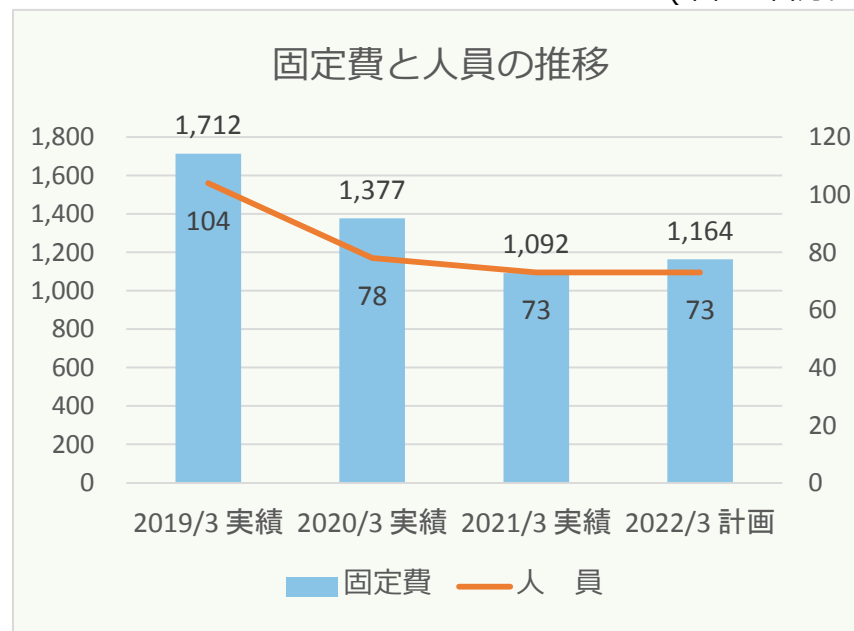
総資産、固定費等の推移 (2)

- 収益拡大は、新型コロナウイルス感染症や国内外の設備投資抑制などの影響から、現状は未達
- 資産の圧縮は、工場土地・建物の売却などで現預金を除く資産は、3年間で40%以上圧縮
- 固定費の削減は、工場の閉鎖・統合、人員配置の適正化などで、3年間で30%以上の削減

(単位：百万円)



(単位：百万円)



キャッシュ・フローの推移

- 営業キャッシュは黒字を継続、投資キャッシュをカバー
- 借入金返済で資金減少も、当面資金繰り懸念はない
- 事業再構築が急務、新規事業の立上げ、新製品の開発・販売で収益拡大

(単位：百万円)

